

広報誌

ひだまり⁺

VOL.29

TAKE
FREE

Aki General Hospital has celebrated its 10th anniversary since the opening of the new facility. We pledge to continue delivering best medical care for the community in the years ahead.



高知県立あき総合病院
Aki General Hospital

私たちは安芸地域とともに歩み、
人々の心とからだの健康を支えていきます。

理念

「私たちは安芸地域とともに歩み、人々の心とからだの健康を支えていきます」

基本方針

- 安芸地域のための急性期病院を目指します。
- 安芸地域に良質な医療を提供します。
- 地域の医療を担う医療従事者を育てていきます。
- 地域と連携し信頼される病院を目指します。



患者さんの権利

私たちは「患者さんの権利」を大切にします。

- 良質な医療を受ける権利
- 自身の医療に関し十分な情報と説明を受ける権利
- 自ら医療を選択する権利
- 他の医療機関の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利
- 個人情報とプライバシーが保護される権利
(これらの権利が尊重されなかったと感じる場合は、意見を述べるすることができます。)



特集

開院 10周年を迎えて

病院沿革・院長メッセージ

病院機能

病院配置図



高知県立あき総合病院
Aki General Hospital

TEL.0887-34-3111
〒784-0027 高知県安芸市宝永町3-33

広報誌「ひだまり+」の
バックナンバーはこちらから



未来への継続的な奉仕と信頼 — あき総合病院が果たす地域医療の使命

2014年に新病院が開院した県立あき総合病院は、以来、高知県東部地域の医療を支える存在として、地域社会に貢献してまいりました。開院後10年が経過し、これまでを振り返りつつも、未来への確かな歩みをさらに続けています。

高知県全体で人口減少が進む中でも、私たちは地域社会と共に歩む姿勢を常に持ち、医療の提供において一貫して信頼を築いてきました。将来の社会においても、地域の基盤となる医療が確固たるものであれば、人口減少に対応しつつも持続可能な社会を築くことができると信じています。

特に高齢者医療や高齢者救急対応、新興感染症の診療など、将来に向けた課題に取り組み、地域社会にとって不可欠な存在として存在し続けていきます。また当院は東部地域唯一の分娩施設として、周産期医療においても重要な役割を果たしています。

今後も地域を守り、患者さんやご家族、そして地域の方々にとって頼りにされる病院としての役割を果たしていく覚悟です。これからも共に歩み、地域社会に貢献し続けるために、温かいご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



高知県立あき総合病院
病院長

1964年高知県生まれ
日本外科学会認定医・専門医・指導医
高知大学医学部臨床教授
医学博士

まえ だ ひろ のり
前田 博教

沿革

2011年(平成23年)
院長着任、新病院名称決定
病院理念・方針決定
シンボルマーク決定
心カテ室追加設計変更決定
両病院長会議

2012年(平成24年)
安芸・芸陽2病院統合
広報誌「ひだまりプラス」発刊
病院HP改訂、画像症例検討会開始
高校生地域医療体験セミナー開始
精神科病棟先行移転

2013年(平成25年)
感染合同カンファ開始
地域型認知症疾患医療センター開設

2014年(平成26年)
新病院開院(3月22日)
電子カルテ開始(IBM)心カテ開始
地域連携懇談会(ちれんこん)開催

2015年(平成27年)
病院総合医養成センター開設
地域包括ケア病棟開始
病院機能評価受審

2016年(平成28年)
基幹型初期臨床研修開始
DPC算定開始
PNSシステム導入

2017年(平成29年)
電子カルテ相互参照開始
ちれんこん2017開催

2018年(平成30年)
外来コンサルジュ開始
地域がん診療病院

2019年(平成31年・令和元年)
東部心疾患センター開設
一次脳卒中センター指定
東部周産期センター開設

2020年(令和2年)
新型コロナ受入協力病院
病棟重症室整備
ナイトサポーター増員

2021年(令和3年)
病院機能評価受審
「あき総合病院前駅」開業

2022年(令和4年)
がん化学療法センター開設

2023年(令和5年)
ハイケアユニット(HCU)開始
精神科あり方検討委員会

2024年(令和6年)
新病院開院10周年記念式典(3月22日)



スタッフステーション



エントランス



カテ室



あき総合病院の病院機能について

HOSPITAL FUNCTION

総合医養成センター

日本全体で高齢化が進むことで、医療需要はますます増えていくことが予想されます。

高齢者の方は一つの病気だけではなく、生活習慣を背景とした複数の疾患を抱えることがほとんどで、治療や入院生活に伴い、日常生活動作の機能が低下し、介護等の在宅での療養支援が必要となるケースが多く見られます。

これからの地域医療においては、体全体の病態や患者さんの生活などを総合的に考慮した「治し支える医療」を提供できる医師の存在が不可欠となります。当院では、総合医養成センターを設置し、総合医の養成に努めています。



総合医養成センター長
場 俊 (総合診療内科)

認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターでは本人からの直接相談のほか、かかりつけ医からの紹介により、認知症に関する詳しい診断をつけ、認知症に基づく行動・心理症状に対する必要な治療・相談等を行います。

かかりつけ医や介護支援事業者、市町村等とも連携して地域の中で認知症患者さんが生活しやすい環境を整えていくようにサポートしています。

今後も増加が予想されている認知症。お困りの際にはご相談ください。



認知症疾患医療センター長
峯瀬 正祥 (精神科)

急性心筋梗塞治療センター

2014年の新病院開院時から心臓カテーテル治療を開始し、東部地域での心筋梗塞死亡率を大幅に低下させることができました。また、急性心筋梗塞の発症後、県内の治療センターへの到着までに要する平均時間も低下している状況からも、当院が安芸医療圏で担う役割は重要なものとなっています。

2021年にはこれまでの治療成績が認められ、高知県から急性心筋梗塞治療センターの指定を受けました。

今後も地域のためのセンターを目指してまいります。



急性心筋梗塞治療センター長
桑原 昌則 (循環器内科)

東部脳疾患センター

当院は、日本脳卒中学会の指定する一次脳卒中治療センターの指定を受け、安芸医療圏の脳卒中治療に対応しています。

令和5年4月からは、新たに稼働したハイケアユニット(HCU)も活用し、専門性が高い脳卒中治療を多職種チームで対応しています。

また、当院で急性期治療を行った後は、地域の医療機関との連携を進めるための「脳卒中地域連携パス」を活用し、脳卒中の治療成績の向上に取り組んでいます。



東部脳疾患センター長
岡田 憲二 (脳神経外科)

がん化学療法センター

国内の死亡原因の第1位は悪性新生物(がん)であり、これまで40年以上もがんが主要な死亡原因となっています。

当院は、2018年に地域がん診療病院に指定され、高知大学医学部附属病院との連携の下で、安芸医療圏のがん診療を担っています。

近年、がんの薬物療法は分子標的薬の進歩により治療効果が上がっています。令和4年には院内にがん化学療法センターを立ち上げ、手術療法に加えて、薬物療法による治療も積極的に取り組んでまいります。



がん化学療法センター長
窪田 哲也 (呼吸器内科)

病院機能とは 病院機能とは、地域の人口構成、健康状況、社会的状況をもとに医療ニーズを把握し、患者さんに最適な医療サービスを提供するものです。このためには診断、治療、看護、リハビリテーションに必要な人材、医療機器を整備するとともに地域の医療機関、薬局、介護施設などと連携し、地域資源を最大限に活用した包括的かつ総合的な医療ケアが重要です。

あき総合病院は、地域において不可欠な医療を提供しており、特にがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、精神疾患、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療などの国の定める5疾病5事業を担当しています。これに加え、今後ますます重要性が高まる高齢者医療など、広範な地域のニーズに応えるために、それぞれの専門部門のセンターを設立しています。

あらゆる場面に対応した 地域医療の要

当院は安芸医療圏で求められるさまざまな状況に対応できる医療体制を整え、地域の拠点病院としての役割を担っています。

Hospital function



地域での新型コロナなどへの感染症対策

新興感染症

2020年から始まった新型コロナ感染症は、安芸地域でも多くの患者が発生しました。当院では新型コロナ受け入れ協力病院として、コロナ病床を設置し診療に当たりました。また、発熱外来での対応や新型コロナワクチンの集団接種への協力など、病院全体で地域の感染症対策に取り組んでいます。今後も再流行に備え、これまでの経験を活かした地域の感染症対策を強化していきます。



中山間地域での医療を守る

へき地医療

あき総合病院はへき地医療拠点病院の指定を受けています。
「へき地医療」とは、無医地区など過疎地に居住する住民の健康管理と診療ニーズに対応するための医療です。当院では安芸市山間部への月1回の無医地区巡回診療や馬路村などのへき地診療所の代診応援を行っています。今後も地域に必要な医療として継続していきます。



新体制も導入した地域唯一の助産施設

周産期・小児医療

当院の産婦人科は昭和26年に旧安芸病院が設置されて以降、安芸医療圏の周産期医療を担ってきました。近年の少子化に伴い出産数は減少傾向にありますが、安芸圏唯一の助産施設として、皆さんが安心して出産、子育てができる環境を守っていく必要があります。また、昨年度より日本医学会の認定を受けて、非侵襲性出生前遺伝学的検査(NIPT)を開始しました。赤ちゃんの染色体疾患を出生前に調べることができる検査で、遺伝専門医による診療体制を有しています。



幅広い分野を網羅する地域の拠点病院



救急医療・災害医療

(災害拠点病院)

あき総合病院では、毎年1,800件程度の救急搬送の受け入れを行っています。これは、安芸医療圏で発生する救急症例の半数以上を当院が受け入れていることとなります。
救急搬送される患者を疾患別に見ると、骨折等の外傷患者が最も多くなりますが、それ以外でも神経・脳血管疾患系、循環器系、消化器系など幅広い症例を受け入れています。
また、当院で対応できない重篤な症例であっても、あき総合病院の屋上にはヘリポートが設置されており、すぐに高次医療機関へ搬送を行える環境を整備しています。

Aki General Hospital FLOOR MAP



診療一覧

内科	精神科	神経内科
呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
血液内科	リウマチ科	小児科
外科	整形外科	脳神経外科
胸部・心臓血管外科	形成外科	皮膚科
泌尿器科	産婦人科	眼科
耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線科
麻酔科	救急科	

病床規模

病床数 270床(一般175 結核5 精神90)

施設概要

構造:鉄骨鉄筋コンクリート造、免震構造
階数:地下4階
延床面積:20505.87㎡

- 総合案内
- 時間外受付
- 1-5 中央受付
- 7 再来受付
- 8 地域連携室・医療相談

外来診療エリア

- A 外来**
外科/形成外科/脳神経外科/
胸部・心臓血管外科
- B 外来**
内科系/整形外科
- C 外来**
小児科/耳鼻科/皮膚科
- D 外来**
産婦人科/眼科/泌尿器科
- E 外来**
精神科

検査治療エリア

- 10 中央処置
- 11 採血・採尿
- 12 放射線・内視鏡
- 13 生理検査
- 14 救急室

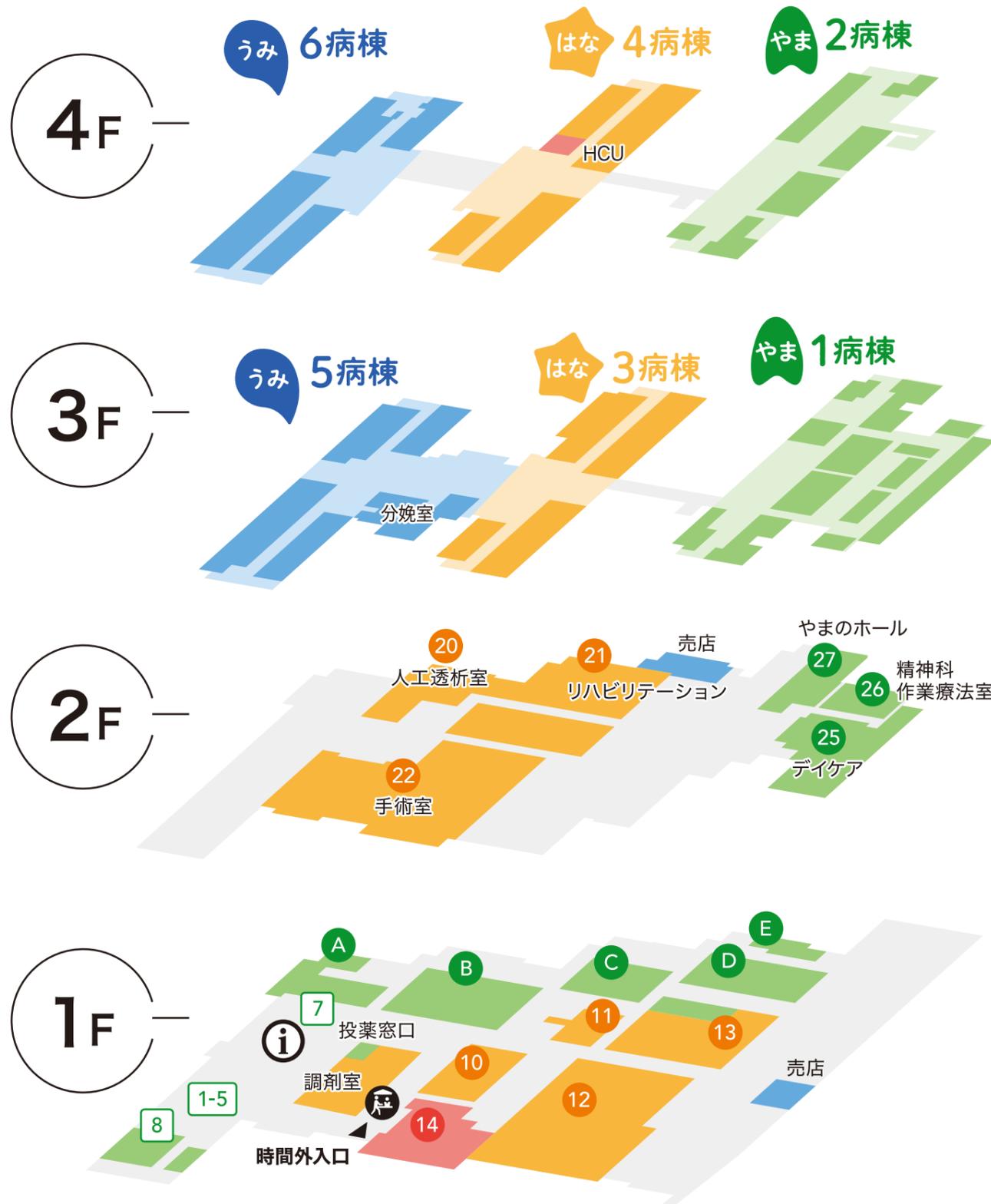
指定医療機関

- ・保険医療機関
- ・救急指定病院
- ・災害拠点病院
- ・へき地拠点病院
- ・エイズ治療拠点
- ・肝炎治療特別促進事業治療医療機関
- ・原子爆弾被害者医療指定医療機関
- ・結核指定医療機関
- ・指定養育医療機関
- ・母体保護法指定医の配置されている医療機関
- ・産科医療補償制度加入医療機関
- ・自立支援法指定医療機関(更生・育成医療)
- ・精神科救急医療施設
- ・応急入院指定病院
- ・自立支援法指定医療機関(精神通院医療)
- ・身体障害者福祉法に基づく指定医療機関
- ・心神喪失者等観察法指定通院医療機関
- ・生活保護法指定医療機関
- ・労働災害保険指定医療機関
- ・特定病院指定病院
- ・労働災害保険指定医療機関
- ・特定医療費指定医療機関
- ・指定小児慢性特定疾病医療機関
- ・認知症疾患医療センター
- ・地域がん診療病院

施設認定基準(専門医等施設認定一覧)

- 日本内科学会認定医制度教育関連病院/総合内科専門医
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設/循環器専門医
- 日本老年医学会認定施設/老年病専門医
- 日本呼吸器学会連携施設/呼吸器専門医
- 日本血液学会専門研修教育施設/血液専門医
- 日本高血圧学会認定研修施設II/高血圧専門医
- 日本外科学会外科専門医制度関連施設/外科専門医
- 日本整形外科学会整形外科専門医研修認定施設/整形外科専門医
- 日本脳卒中学会認定研修教育病院/脳卒中専門医
- 日本周産期・新生児医学会暫定認定施設/周産期専門医(母体・胎児)
- 日本眼科学会眼科研修施設/眼科専門医
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設/泌尿器科専門医
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設/皮膚科専門医
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院/麻酔科専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関/放射線科専門医
- 日本精神神経学会 精神科専門医制度研修施設/精神科専門医

※日本専門医制評価・認定機構に加盟している学会の中で認定を受けているもの



初期臨床研修医



あき総合病院は基幹型臨床研修病院です。地域医療の最前線で、救急外来を含め幅広い症例を十分に経験できます。また、プライマリ・ケアを学ぶために適した環境で、自院で精神科研修も行えます。高知県内の協力型臨床研修病院・協力施設と連携しているため、研修先の選択肢も豊富です。

あき総合病院
特徴1

救急医療から在宅医療まで Common diseaseを豊富に 体験できる

高知県東部の安芸保健医療圏の中心的な病院として、急性期医療から地域医療の現場、訪問診療、在宅看取りまで幅広い経験ができます。



あき総合病院
特徴2

他科との 連携がスムーズ

医局内は診療科別の垣根がなく、他科の医師に相談しやすい環境です。毎朝行われる入院患者のカンファレンスにはさまざまな診療科の医師が参加します。

あき総合病院
特徴3

スタッフ全員で 研修をサポート

多職種合同カンファレンスなど看護師やメディカルスタッフとも、コミュニケーションをとりやすい環境で研修ができます。



あき総合病院で経験できる疾患について(救急搬送症例の内訳)

外傷、神経系、脳血管障害、精神疾患、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌・栄養・代謝、筋骨格系、泌尿器系、中毒・アレルギー、その他

専門研修の流れ

1・2年次と3年次に分かれ、研修の目的や内容、研修施設がそれぞれ異なる

専門研修1・2年次

- 「総合診療Ⅱ」「内科」「小児科」「救急科」を中心に研修
- 「総合診療Ⅱ」「内科」を主軸とした
- 10の連携施設群コース(モデルコース)から選択
- 希望により「その他領域別」の研修が可能

10の連携施設群コース

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 あき総合病院群コース | 6 細木病院群コース |
| 2 幡多けんみん病院群コース | 7 JA高知病院群コース |
| 3 高知医療センター群コース | 8 いずみの病院・高知赤十字病院群コース |
| 4 近森病院群コース | 9 土佐市民病院・高知赤十字病院群コース |
| 5 NHO高知病院群コース | 10 高知生協病院・高知赤十字病院群コース |



専門研修3年次

- 「総合診療Ⅰ」を研修
- 18の連携施設から専攻医のニーズにマッチした研修施設を調整
- 希望により、週一回、補充研修が可能

18の連携施設

- | | | |
|----------|--------------|------------|
| 1 高知生協病院 | 7 高北国民健康保険病院 | 13 渭南病院 |
| 2 田野病院 | 8 梶原病院 | 14 大井田病院 |
| 3 野市中央病院 | 9 須崎くろしお病院 | 15 日高クリニック |
| 4 嶺北中央病院 | 10 くぼかわ病院 | 16 大崎診療所 |
| 5 高知西病院 | 11 四万十市立市民病院 | 17 大正診療所 |
| 6 仁淀病院 | 12 大月病院 | 18 西土佐診療所 |

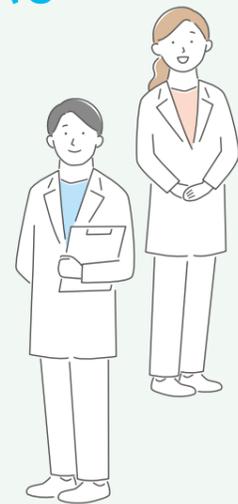
3年間の研修終了後
「総合診療専門医」取得



あき総合病院も連携施設として参加している
高知家総合診療専門
研修プログラムとは
高知家総合診療専門研修プログラムは高知大学医学部附属病院を基幹施設とし、他に県内32の医療機関が連携施設として参加する全国でも最大規模の総合診療専門研修プログラム。

目指すのは

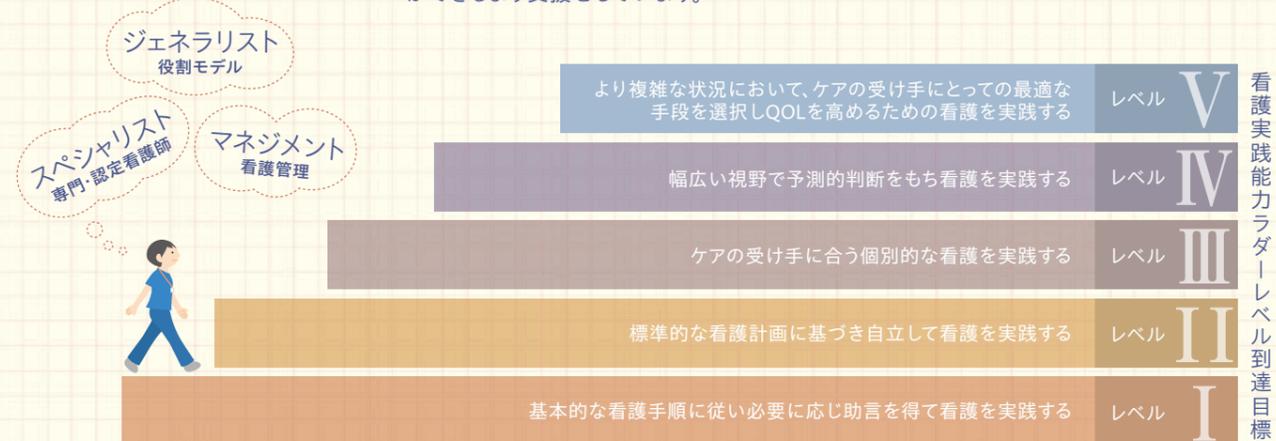
病院、診療所などで活躍する
確かな診療能力と、
地域包括ケアシステムの
リーダーとなる資質を備えた
総合診療専門医の養成です。



看護師

看護部の継続教育システム

あき総合病院看護部では『看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)』を基に、『あき総合病院クリニカルラダー』を作成、当院の看護師に必要な看護実践能力である救急医療に不可欠な臨床判断能力(フィジカルアセスメント)、地域住民が住み慣れた地域で自立した生活を送るための医療・保健・福祉・介護との連携・協働できる能力、そして、急速に進む高齢化社会に対応するための高齢者ケアを実践できる能力を習得、強化できる継続教育システムを構築、個々の看護師が自分のライフスタイルにあわせ主体的にキャリアアップができるよう支援をしています。



「看護師」・「病院薬剤師」のキャリアアップを支援 あき総合病院は、個々の「学びたい」「成長したい」気持ちを支えます

病院薬剤師

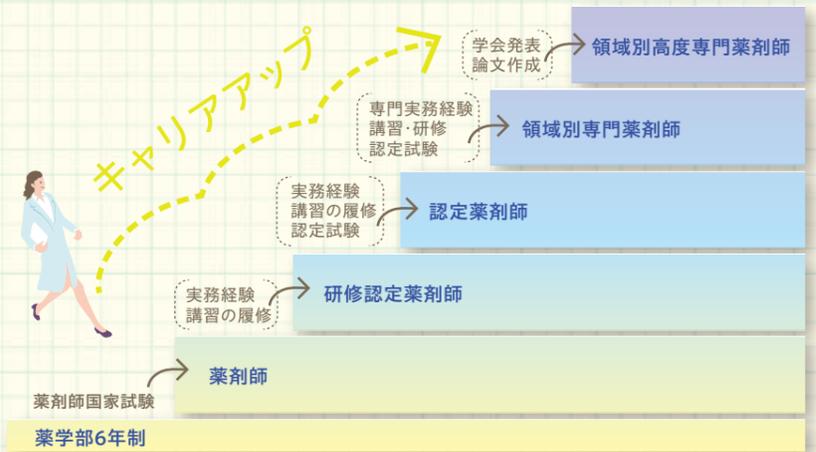
薬剤師の処遇改善への取り組みとして、R6.4から初任給調整手当の支給が始まります。

病院薬剤師の役割

病院では、患者様にとって最も効果的な治療法や方針を検討するため、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士など医療スタッフがそれぞれの専門性を発揮し、協力し合うチーム医療が行われています。薬剤師は、薬の適正な使用法の提案や副作用・相互作用のチェック、これに基づく処方提案などを行っています。医療技術の進展とともに薬物療法が高度化しており、チーム医療において、薬の専門職である薬剤師の活躍はますます期待されています。

専門(認定)薬剤師としての キャリア形成

薬剤師は薬のスペシャリストです。薬に対する幅広い知識は持ち合わせていますが、最近の薬物療法の進歩は目覚ましく、臨床現場において各疾患の治療に際し、より深い専門知識の充実が必要な時代となってきています。



※出典 日本学術会議 薬学委員会 専門薬剤師分科会(H20.8.28) 専門薬剤師の必要性と今後の発展